



クラブテーマ
ロータリアンとしての意識向上と奉仕の原点回帰
次年度創立 25 周年を迎える体制づくり



国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ
東京武蔵国分寺ロータリークラブ

2016. 4. 18
週報

第1028回 例会報告

司会：瀬野 ちどり 会員



- 2、みんなに公平か
- 3、好意と友情を深めるか
- 4、みんなのためになるかどうか

【熊本地震での甚大な被害へ黙とう】

【開会点鐘】

小林 康久 会長



【ロータリーソング】

『我等の生業』

ソングリーダー：

古殿 智浩 会員



【お客様照会】小林 康久 会長

玉村 秀樹 様 (ロータリー財団奨学学友
VTT 委員長、調布むらさき RC)

奥村 文直 様 (東京国分寺 RC)

中村 知恵 様 (ロータリー奨学生、一橋大)

【会長の時間】

小林 康久 会長

先日の九州地方の大地震に伴い、昨日までに 41 名の犠牲者と各地で大変大きな被害が出て、いまだに余震も続いており現地の方々は大変な思いをされています。心より哀悼の意を表したく思います。

被害にあった皆さんが先ず要求するのが水です。日頃震災に対する心構えを行いたいですね。

今日はロータリアンとしての再認識を行うために先ず、皆さんと四つのテストを行い、ロータリーの目的を読ませていただきます。

☆四つのテスト

- 1、真実かどうか

☆ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 1、知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 2、職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 3、ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 4、奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進する。

☆クラブのホームページ

最近の我クラブのホームページは、村谷会員と鷹野事務局員の名コンビで大変性格でスピーディに週報が出来ておりますし、また、全般的にも大変素晴らしい構成となっておりますので是非ご覧ください。

【幹事報告】

高良 茂 幹事



- 4月13日 多摩東グループ IM
 - 4月13日 2016-2017年度R財団キックオフ会議
 - 4月14日 多摩中G親睦ゴルフ
 - 4月16日 東京iシティRC創立5周年記念式典
 - 4月17日 青少年交换来日ホストクラブ・ホストファミリー会議
- *東京井の頭RC30周年記念式典が6月6日に予定されていますので参加宜しく願いいたします。

【委員会報告など】

★出席委員会／出席報告
影山 昭夫 委員



会員数 42名 免除 5名 有効会員数 37名
出席者 29名
メイクアップ済 2名
計 31名 出席率 84%
前々回(4月4日)の訂正
77%を80%に訂正

【ニコニコボックス】

小川 義幸 親睦活動委員



○玉村 秀樹

ロータリー財団委員会副委員長

奨学生、中村知恵さんの卓話よろしくお願ひ致します。又、この度は奨学生のスポンサークラブを勤めて頂きまして有り難うございます。

○小林 康久 会長、高良 茂 幹事

本日は中村知恵奨学生S実補の9月よりのロンドン入学おめでとうございます。お祝いとしてニコニコします。

○田 畑 哲 朗 会員

笑顔にニコニコではないのですが、故郷の熊本が変なことになっています。私の親戚や知人には幸いにもケガ人は出ていませんが、夜は避難所で休んでいるようです。亡くなられた方には心よりお悔やみ申し上げます。これ以上の被害が拡大しませんよう一刻も早く余震が治まりますよう祈ります。

○鏑木 孝和 会員

本日、当クラブがホストクラブとなる中村さんの卓話です。よろしくお願ひします。

○有志 会員

日下部さんの送別会の残金をニコニコします。当日、参加者が増えた為余りました。

【卓話】

鏑木 孝和
地区奨学・学友VTT委員



ロータリー奨学生
中村知恵 様



ご紹介頂きましたグローバル補助金奨学生のの中村知恵と申します。このたび武蔵国分寺ロータリークラブの皆様には、スポンサークラブとして私の留学をご支援頂けますこと誠にありがとうございます。私は、ロータリーの掲げる6つの重点分野のうち「平和と紛争予防/紛争解決」で、今年9月よりキングス・カレッジ・ロンドンの修士課程プログラムに留学させて頂く予定です。本日の卓話では、これまで私自身が行ってきた活動や、今後紛争地での支援にどのように関わっていきたいかについてお話させて頂きます。

私が、紛争地での支援に興味をもったきっかけは、高校3年生の時に瀬谷ルミ子氏の「職業は武装解除」を読んだことでした。子どもの頃から平和といったことに関心があったのですが、少年兵や性的暴力など紛争地の苛酷な現状をその時初めてしっかり認識する機会となりました。それと同時に日本人が紛争地で活躍しているということにも刺激を受け、私自身は紛争地で犠牲となっている人のために何ができるのかと考えるようになりました。そうした問題意識の下、大学では国際関係を専攻し、卒業論文では内戦の影響により200万人以上もの国内外避難民が発生している南スーダンの平和構築について執筆しました。また、交換留学先のカナダ・ヨーク大学では、アフガニスタンやスーダン、イラクといった紛争影響国出身の生徒とアフリカの歴史であるとか途上国の開発について学んできました。

机上での勉強に加え、大学2年時には、NPO「動く→動かす」でボランティアを行い、昨年6月～12月には、瀬谷ルミ子氏が理事長を務める日本紛争予防センター(JCCP)で約7か月インターンシップを経験しました。そして今年2～3月には、パレスチ

ナ・イスラエルにて JICA パレスチナ事務所のインターンとして初めて現場での支援にあたりました。パレスチナはイスラエルの占領下にあり、現在イスラエルによる入植地の建設、分離壁や検問所の設置など様々な問題に直面しています。2014年にはガザ紛争で2000人以上もの人々が犠牲となりました。今回の現場経験を通して、現地に行って初めて見えてくるものも多く現場目線で考えることの重要性を痛感しました。今年4月からは、紛争地の第一線で紛争被害者の支援にあたる赤十字国際委員会(ICRC) 駐日事務所でインターンを開始し、紛争地の現状についてさらに学びを深めています。

こうした学業・インターンシップなどの活動を通して、私は将来、特に「紛争地における女性や子どもの支援」に携わりたいと考えています。紛争地の女性や子どもは、性的暴力や家庭内暴力にさらされることが多い上に、彼女たちを保護する法律や警察なども機能していないのが現状です。そして、こうした状態を放っておくと、暴力を受けた母親が子どもにさらに暴力をふるったり、フラストレーションがたまっただけで子どもが暴力的に成長したりすることによって、新たな紛争の発生につながる懸念が懸念されます。しかし一方で、こうした負の連鎖を食い止めるために、厳しい状況下にある紛争地の女性や子どもへの支援することで、地域の持続的な紛争予防につながることを期待されます。被害者を保護し、心のケアを行い、紛争解決等について必要な研修を行うことで、彼女たち自身が平和の担い手となり、地域主体での紛争予防につながると考えられます。よって、私は「持続的な紛争予防」を目指し、将来は紛争地で社会的に弱い立場の女性や子どもの支援にあたりたいと思います。

このように私は将来紛争地での支援に携わりたいと考えている一方で、これまで紛争下で女性が抱える問題、紛争解決に関して包括的に学んだ経験がなく、専門性の欠如を痛感しています。そのため、

今回戦争学で有名なキングス・カレッジ・ロンドンの「紛争・安全保障・開発」コースに留学し、世界各国からきた学生と切磋琢磨して学んで参ります。大学院卒業後は、国際機関や国際NGO等で実務経験を積み、紛争地の女性と子どもの支援に尽力したいと思います。

皆様からのご支援に応えられるよう精一杯頑張りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

【謝辞】

小林 康久 会長



【閉会点鐘】

小林 康久 会長

東京武蔵国分寺ロータリークラブ

会長:小林 康久 幹事:高良 茂

クラブ広報・会報委員会 委員長:村谷 晃司 副委員長:佐藤 喜義 委員:尾崎 幸信 櫻井 健生 鍋木 孝和

例会場 国分寺市南町3-20-3 国分寺ターミナルビル8F Lサロン飛鳥

事務局 国分寺市南町3-20-3 国分寺ターミナルビル9F

Tel 042-323-3443 Fax 042-323-3459
